

2014年12月6日 中間報告会（および富士ゼロックスの古地図披露）の開催報告

増子 美希

2014年12月6日に渡辺公民館にて中間報告会を行いました。約半年ぶりに訪れましたが、相変わらずのどかな風景が広がっていて、以前と違ったところは、青々としていた田んぼが刈り入れられて、少し寒々としていたところです。

さて、報告会には前回お話を伺った方が数名いらっしゃいました。私たちが事前に準備した報告に、興味深そうな表情をしたり、時には眉をひそめて真剣そうな表情をしたり、嬉しそうに聞いてくださいました。報告を終えると、私たちが調べきれなかったさらに詳細なお話を積極的にしてくださいました。とても協力的で、今後の調査が更に深まることだろうと思います。

今回の中間報告会で最も印象に残ったことは、調査のなかで現地から働きかけがあり、富士ゼロックスの方々が強いこだわりを持って作ってくださった渡辺町（旧田部村）の複製地図を、みなさんが「この町がこれから発展する足がかりになる」とおっしゃっていたことです。複製地図を見て、「自分の家はここだ」と指さしたり、「この道は今はない」と、昔話に花を咲かせていたり、地図を見るだけで、さまざまな思い出が蘇っているようでした。その思い出話を知らない世代に伝えたり、他者に話したりすることは、とても大事なことだと思います。町が発展するためのひとつの要素として、地元住民、あるいはその他の人の、地域への「愛着」があります。そして、今回のこの複製地図の披露で、みなさんの地域への思いをひしひしと感ずることができました。今後、さらなる「愛着」が生まれることでしょう。

渡辺町の方は「何もないところによく来たね」と言うことがあります。でも、何もないのではなくて、むしろここにあって都会にはないものがたくさんあります。それは豊かな自然だったり、地域の文化だったり、住民のつながりの深さだったり、とても魅力的な数々です。それにみなさんが気づいて理解することが地域発展につながります。そして、私たちの調査がそのお手伝いになればと願わずにはいられない中間報告会でした。

